ユーザー ·訪問

ている。岡根正取締役兼常務 する電力量が抑えられ、ラン ニングコストの削減効果を実 執行役員は「センターで使用 ー」を物流センターで利用し

市、工藤恭二社長)は、アイヤマエ久野(本社・福岡 リスオーヤマが提供するAI 搭載空調省エネソリューショ ン(解決策)「エナジーセーバ

時点で千葉、神戸、福岡、長各地で取り入れ、24年7月末 2023年。7月にテスト運 を含めると10カ所に上る。 で取り入れる。テスト運用中 ター(大分市)で始め、 崎、鹿児島を合わせた6カ所 に本格的な運用に移行。以後 用を大分支店チルド物流セン エナジーセー ーの導入は

採用の決め手 丁寧な提案が

り付け時は、空調を一時停止

供も実現できた。今後も各セ 業員への快適な職場環境の提

ンターで積極的に取り組んで

いきたい」(同)。

カーを問わず後付け可能。取

般的な空調機であればメー

用した。「取り扱い品質の向

のセンターでは全館空調を採

上はもちろん、現場で働く従

岡根取締役兼常務執行役員 エナジーセー 一の導入 からも 出荷スケジュールに合わせた させる必要はあるが「現場の 工程作成により、出荷スケジ



を低減 拠点運用コス 1

国内では電 は

アプローチを受けたが「テス ト運用まで含め、繰り返しの 製品を扱う他メーカー に当たって空調関連の省エネ

電力使用量の削減実感 ビニなど小売店や、飲食店向開。食品は、スーパー、コン 開。食品は、スーパー、コン食品や木材住宅資材の卸を展 感している」と話す。 け商品を保管する冷凍・冷蔵 ーを国内53カ所で運営してい 常温の3温度帯物流センタ ヤマエ久野は九州を中心に いる。 岡根取締役兼常務執行

ヤマエ久野

「今後、空調の使用が増え、エナ ジーセーバーの有用性は高まる」 「今後、

とする。 テナンスまで一括で手掛ける 全国ネットワークを評価した た」とし導入から保守・メン と岡根取締役兼常務執行役員 め手となっ

切った。

が増加する見通しも示し、エ 今後、センターで空調の使用 進める方針」(同)。 同社では

だった」と ンド力も決 また、「ブラ 振り返る。 ったのは、 アイリスオ ・説明があ ヤマだけ

続き、各センターへの導入を 回収のめどが立ち導入に踏み て、一定の効果を確認。投資 2カ月程度の試験期間を経 「スピード感を持って引き

る。

前年同月比で約10%削減し

ネルギー

-消費量を抑制する。

を最適化することで過度なエ 機にセンサーを取り付け運転

になってきた。そこで、沖縄 ていた食品も冷蔵対応が必要 れまでは常温区画で取り扱っ

センターでは、23年10月~24

語る。実際先行する大分鮮冷

エナジーセーバ

は

空調

年3月の単月の電力使用量は

らし、センター運営にかかる

費用の抑制につなげたい」と

役員は「(電力) 使用量を減

ナジーセーバ

バーの有用性はさ

らに高まるとする。

昨今の温暖化の影響で、こ

気料金は高水準が続き、コス トの増加が経営課題になって 約4割が低温区画の温度管理 類によって異なるが、全体の 模やエアコンの設置台数・種 に使われている。 電力使用量はセンターの規

負荷がかかる前にエナジれる。過冷却による電力 バーの自動制御が A | が空調運転を最適化し、快適 動作時間を短くし室内温働き、コンプレッサーの 量を減らす。 度の変化を抑え電力使用 運用までの基本的な流

送

エナジーセー、

エナジーセーバーは、空したアイリスオーヤマの

2023年4月に発売

調の電力使用量を削減

経

品

製

紹介

サー(圧縮機)の運転をし、室外機のコンプレッセンサーに情報を伝達

量のうち、約8割はコン プレッサーの運転に使わ

制御する仕組みだ。

空調機全体の電力使用

さと省エネを実現する 購入、リースに加え、削エナジーセーバーの一括 を試算した上で、 確認。その後、削減効果 の施設で空調機や直近12 れは、初めに、運用予定 本運用となる。導入プラ 減見込みの

電気料金から 取り付け・設定を行い 刀月の電力使用量などを ノは3種類から選べる。 機器の

する機器だ。物流センタ

電気料金抑制を実現

で空調を最適制御

空調

-や倉庫の電力コスト増

温度維持と省エネ両立

加に悩む企業をサポー

リプション(定額制) め、さまざまな導入方法 クも用意しているた 用料を支払うサブスク 5 担当者から

の電力高騰へも間に合う。

今後も企業の省エネを支援する製品

吸い込み口に取り付け、

エアコンの吹き出し口・

2つの温度センサーを

搭載された独自プログラ

AI

がある点が魅力だ。

ることで、経営に役立ててもらうこと をデータで確認できる仕組みを提供す

スの展開を目指す。省エネ対策の効果 で使用した電力量を可視化するサ 開発を推し進めていく。まずは、

ムを介して空調機の温度

温の推移をモニタリン エアコンの稼働状況と室

温度データは本体に

希之氏

の自動変更といった制御を行う製品も応じて、送風への切り換えや設定温度ローラー」などと呼ばれ電力使用量に のため、工期も短く今であればまだ夏 流に適している。既存の空調へ後付 間を最小限に抑え省エネが可能。厳密 保ちながら、コンプレッサー り、デメリットがある。運転・停止を な温度管理が求められる冷蔵倉庫・物 量が大きくなり省エネ効果は薄い あるが、室内温度が変化する場合もあ づいて空調を制御。室内温度を一定に 繰り返すため再稼働時に使われる電力 一方、エナジーセー ーは温度に基 -の稼働時

丁寧な提案 訪問による 行して取り付けができた」(岡ュールを遅らせることなく並 根取締役兼常務執行役員)。

【問い合わせ先】エアソリューション事業部

2022 (253) 7095

今夏に間に合う節電対策

市場には、一般に「デマンドコン